

平成25年度「使える英語プロジェクト事業」公開授業及び研究協議会の報告書

市 町 村 名 枚方市
 実践研究校名 第三中学校

【公開授業】公開日：平成25年 6月24日

対象学年：2年生

<p>(教材・教科書名) 「New Horizon English Course 2」(東京書籍) (单元名) Unit3「My Future Job」</p>	<p>(本時の指導の目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ to不定詞を使用し、様々な職業について表現できるようになる。また活動を通して不定詞に親しむ。 ・ さまざまな職業を知る。また自分の将来について考える機会を持つ。
---	---

(本時の授業において工夫した点)

- ・ 普段の授業から“仲間作り”を視点に毎時間最初に“Class Goal”を提示したり、授業内で指導対象となる行為が見受けられたときには、クラス全体で共有し、生徒が考える場面を多く持つようにして授業を進めている。授業進行などを全員が把握するために、また“列差は意識の差”という考えにも基づき、全員が最前列となる円状の座席配置としている。
- ・ 自己表現、コミュニケーション能力の向上は、中身を伴ったものでないといけないと考えている。その視点からも生徒たちが“職業”について学ぶ過程で、to不定詞の表現にも自然に親しめる言語活動を設定した。
- ・ 自分たちで考え、しっかりと話が聞くことができる生徒になるように常に“Less Talk”、“Small Talk”を考え、 unnecessary指示などを無くすように考え授業を進めている。

(授業を終えた教員の感想)

- ・ 普段から英語をベースとした授業を進めているので英語にも抵抗が少ない生徒が増え、落ち着いたやわらかい雰囲気の中で授業を進めることができた。
- ・ NETとの役割分担についてしっかりと事前に取り決めをしてきたものの、話の切り出しなどが満足いくタイミングや形で進めることができなかった。結果、授業進行にメリハリを思ったように付けることができなかつたり、不要な待ち時間が生じてしまった。
- ・ 英語が苦手な生徒が多いからこそ、英語主体の授業で新しい自分を発見したり、周囲の生徒が声掛けをしたり、相談し合って授業を進めていくことで、仲間関係を構築してけるように考えて授業を進めてきた。
- ・ NETと話し合って授業を組み上げる中で、様々な考え方や感覚の違いなどを多く知ることができ、とても役立つとともに、課題が見えた。

【研究協議会】

(テーマ) NETを活用した指導方法の工夫	(指導・助言者) 関西外国語大学 松宮 新吾 教授
--------------------------	---------------------------------

(研究協議会で出された意見)

- ・ 授業進行にテンポやリズムがあり良かった。
- ・ JET と NET の呼吸が合っていてとても良かった。またプロジェクターで投影されている PPT (パワーポイント教材) が効果的に利用されていた。
- ・ 道徳の視点を持った教科指導が勉強になった。また JET の英語力に驚いた。
- ・ 教師が Active 過ぎると生徒が Inactive になるのでバランスのとり方を考えること。

(まとめ)

1. 生徒が授業の 50 分を通してどのような変化があったのかなどに視点を置いて授業を見ることも大切である。
2. アクティブな授業展開が占める比率が高く、時にはサイレントタイムなど生徒たちが落ち着いて考える時間を持つことも必要である。
3. PPP (プレゼンテーション・プラクティス・プロダクション) を中心とした生徒主体の活動を盛り込むことも効果的である。